

第4期 令和元(2019)年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第4回全体会 議事概要

日 時 2019年11月15日（金）10:00～12:00

場 所 区役所本庁舎 6階 第二委員会室

出席委員 毛受委員、稲葉委員、小林委員、長谷部委員、田中委員、岩澤委員、申委員、李（香）委員、金（勲）委員、奥田委員、朴委員、江副委員、鈴木委員、金（朋）委員、盛委員、安藤委員、李（承）委員、那波委員、本多委員、平野委員、伊藤委員、國谷委員、内田委員 23名

欠席委員 郭委員、張委員、パウデル委員、センブ委員、ドゥラ委員、栗原委員、ディン・マイ委員、植木委員、井上委員 9名

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) しんじゅく多文化共生プラザの機能のうち、多文化共生推進のネットワーク機能について事務局から説明があった。その後、委員からご意見をいただいた。

- ・ 多文化共生を推進するためには、目的意識を強く持って肩ひじを張ってやるのではなく、同じ仲間という意識で、茶飲み話をするようなところから、地道に少しずつ絆を作ることが大事。
- ・ 区の職員とも連携しながら、商店会が、いろいろな国の人たちをつなぐ役割を担っていきたい。
- ・ 町会の人も外国人も一緒にできるイベント、防災訓練のようなみんなが集まるイベントや催しを開いてもらえるとありがたい。
- ・ 町会主体で多文化共生をテーマとしたイベントをする際に、プラザがアドバイザーとしての役割を担うと良い。
- ・ もう一步進めて、プラザから積極的に働きかけていくと良い。
- ・ 町会とともに地域センターの管理運営委員会が重要な役割を果たしていると思う。
- ・ 外国には町会がないところが多く、存在自体わからず相互扶助という趣旨もわからない。外国人に対するオリエンテーションの中で、町会を含むいろいろな制度や団体を紹介することが必要。
- ・ 町会では、多文化共生という言葉は必要ない。外国人だからどうこうではなく、お隣同士仲良くしようという気持ちで交流することが結果的に多文化共生の趣旨に合う、ということではないか。
- ・ 町会をPRすることが必要なので、1年間試しに入ってみるといった制度があっても良い。
- ・ 日本語学校には、インプットした日本語を使って日本人と話してみたい留学生がたくさんいる。日本人と自由に話す場がプラザにあると大きな役割を果たせる。
- ・ 中学生が多文化共生サークルを作り、地域の防災訓練に参加したりお祭りにヨーヨー釣りで出店したりしている地域がある。活動を文化祭で紹介するとほかの子も参加したがり、勝手につながっている。

く。多文化共生活動は地域作りであると実感した。この活動は、校長先生が発案者だったことで学校としての取り組みになった面はある。こうした活動のコーディネートをプラザが担えたら良い。

- 古い団地の商店街の活性化に大学生のゼミが関わり、10年経つうちにサークルになり学生が運営する店ができた取り組みがある。地域作りに若い世代、学生がかかわることがポイントである。プラザがボランティアセンターに声をかけて地域づくりの取り組みができると良い。
- 戸塚では早稲田大学の学生の協力を得て防災意識の啓発をしている。子どもたちがお兄ちゃん、お姉ちゃんと感じる学生が話すと影響力が全然違う。何をやるにしても学生と協力するのは大事。
- 早稲田大学の学生寮には、日本人と話す機会がないまま1年間過ごし、日本語を聞き取れないまま帰国する学生が結構多い。寮に住んでいる学生が地域とつながる活動があるとよい。
- ある早稲田のサークルは、まちの中で活動する際にまちの許可を得ることが必要になることもあり、商店連合会の定例会に参加している。自分たちの活動に影響があるので、会議に出席するようになった。学生の参加を得るには、学生の動機を探してそこにアプローチすると良い。
- 日本の子どもたちと交流できるなど、メリットが明確なものは留学生の参加を得られやすい。本来コミュニティ活動はメリットであるものではないとしても、子どもと関わってこういうことを知ろう、食事を一緒にして年代の違う人の話を聞いてみようなど、わかりやすいキャッチコピーがあると参加が得られやすい。どういう団体がどのようなことをできるのかをプラザがまとめて大学を通じて学生に配布することができると、この情報が届くと思う。
- 地域内の団体と活動がわかるようにすることで、そことつながることも起こってくるだろう。
- プラザの役割は大きく二つ、多文化共生の活動をつくる役割と、すでに新宿にあるさまざまな主体をつなぐ役割とがある。新宿区では既にいろいろな主体が積極的に活動していることを考えると、力を入れるべき機能はつなぐことではないか。そして、つなぐ主体としては、第一に町会、第二に留学生が多い日本語学校や専門学校、大学、第三にNPO、そして第四に当事者外国人コミュニティである。このうち、プラザが力を入れるべきは、つながりを持つことに困難があるだろう当事者外国人コミュニティである。こうしたコミュニティとプラザが信頼関係を築き、他団体に紹介できると良い。
- 新宿区は多文化共生に取り組む団体がたくさんあるので、そこをつなぐ役割が大事である。
- 新宿区専修学校各種学校協会の会合には多文化共生推進課の職員も参加してコミュニケーションをとっているの、新宿区の専修学校や各種学校に情報を流すルートはできている。
- イベントを企画する際は、なんでやるかということ考えたほうが良い。東日本大震災以降、地域のつながりが発災時に助け合う関係として機能することが指摘され、発災時に外国人が排除されないように日本人とネットワークを作ることの重要性が語られている。このことを念頭に置くべき。
- 子ども日本語教室の発表会・交流会を区役所の会議室で開催している区がある。こうした発表会をプラザで開催すると良い。

- ・ 継続的に地域とつながるきっかけとして、イベントが大切である。自分が主体となって貢献したいという留学生が多いので、留学生がイベントの主催者の一員になれると良い。
- ・ 新宿区には、まちづくりに参加したいという若い人たちが多くいることが分かったわけだから、そういう人の力をどうつなげていくかが、一番の課題である。

(2) 多文化共生意識醸成のためのプラザの役割

事務局から説明があった。その後、委員からご意見をいただいた。

- ・ 家を借りる際のマナーを守る外国人が増えてきたためなのか、大家さんが以前ほど外国人に対してアレルギーを持たなくなってきた、と感じている。
- ・ 差別や偏見をなくすためには、多文化共生に興味のない人たちに対するアプローチこそが大事。
- ・ 多文化共生意識の醸成は、外国人というよりは日本人に重点を置くべきである。また、町会と外国人とのつながりをつくれれば、イベントよりも継続性が高まる。外国人と触れ合い理解することで少しずつ差別意識がなくなっていく。例えば町会と日本語学校がつながると、町会の方にとっては若い留学生と話すことで楽しくなるし、親から離れて暮らす留学生にとって町会の方は親のような存在なので知り合うことで安心感を得られる。日本にはボランティアをする方がたくさんいるので、プラザがコーディネーター的な役割を担ってそうした人を組織し、つなぐ役割をしてもらおうと良い。
- ・ 最近、町会から日本語学校に対して、留学生の参加を求めてくることもあり、状況は変わってきていると感じる。日本語学校ではいろいろなイベントをやっているのだから、留学生がどんなことに興味を持つのかを知るためにも、来てもらえると良い。
- ・ プラザの職員に誘われて新大久保の4か国会議に参加したことがきっかけで、大久保まつりに60人くらいのベトナム人が参加した。約20人が伝統服のアオザイを着て写真を撮ったりSNSにアップしたりするきっかけを提供でき、とてもよかった。同じくプラザ職員の仲介で、日本で20年暮らしているベトナム人が、地域センターで子どもたちと一緒にベトナム料理を作る経験をすることができた。日本の子どもたちはベトナムのことを知ることができ、講師をしたベトナム人はまた紹介して欲しいと言っていた。このようなつなぐ役割をやってもらえると、いろいろな人が多文化交流できる。
- ・ 韓国のお母さんたちが町会とつながり、日本のことを教えてもらい、同時に韓国のことを話せると、韓国人は日本の暮らしのことがもっとよくわかるし、日本人は親を通じて子どもたちにも多文化共生意識を持ってもらえる。プラザがつなぐ役割を果たす際には、韓国の団体として協力したい。
- ・ 関心が低い人の意識を高めることが大切。多文化共生という言葉になじみがない保護者も多いので、例えば夏休みの自由研究のテーマとして周知すると、親子で知るきっかけになると思う。
- ・ 日本人の集客という観点からもプラザで外国語教室をやるのはどうか。多くのオーストラリア人が来るようになったニセコでは、住民の要望に応じて英会話教室を開いたら、反響が大きく、実際に英語を使いたくなるという循環が起こっている。外国語を学ぶことで外国に関心を持つ入口にもなる。

また、季節行事などを題材にしてプラザで定期的なイベントをすると良い。

- 多文化共生に関心のない人が多いので、多文化共生と謳わないごく普通のお祭りなどで外国人が出店している、民族衣装を着て写真を撮れる、子どもたちはゲームをして遊べるなど、新大久保フェスタのような、行ってみたら面白くて何かのきっかけで外国人と話ができるなどの経験ができると良い。
- つなぐためには、人と人の顔が見えていることが大切なので、関係性をつなげていくためには、プラザの所長が変わったときに人をつなぐ所長の代わりにやる人が欲しい。
- 外国人が増えてきている中で、プラザの人員配置も含めてプラザの機能強化が必要。
- 各コミュニティの責任者の了承を得て、これらのコミュニティの情報を公開できれば良い。

(3) 次回の日程

事務局から次回会議の日程（2020年1月29日）について説明があった。

4 閉会